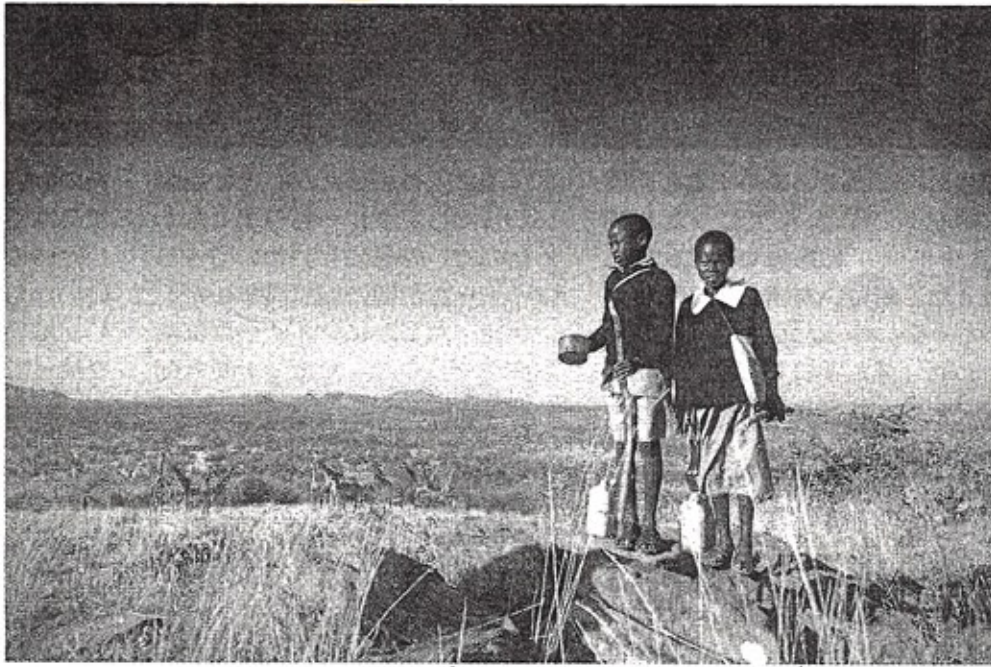


# 映画「世界の果ての通学路」 ジャクソン君に聞く

映画「世界の果ての通学路」は東京・銀座のシネスイツチ銀座ほか、全国順次公開中。配給：キノフィルムズ

© 2013 - Winds - Yeasis - Herodiade



学校へ片道15キロ、小走りで2時間

片道15キロメートル、小走りで2時間。これはアフリカ東部のケニアに住むジャクソン君が11歳、妹のサロメさんが6歳の時の通学路です。野生のソウやキリンがすむサバンナを抜けて学校に通った2人の日常が、公開中の映画「世界の果ての通学路」に映し出されています。朝中特派員の周培文さん(東京・2年)が13歳になったジャクソン君にインタビューしました。周さんがリポートします。(構成・岩本尚子)



6キロ 東へ 練馬 原 4km

## 学ぶことで輝く自分に

ジャクソン君から「日本の友達へ」  
学ぶことで、輝く自分が手に入ると思っています。教育は当たり前にあるものではないです。尊敬の念を持って教育に向き合え、楽しんでほしい。そして決してやめないでください。

# 教育にしかない宝がある

私たち日本の中学生にとって、教育は当たり前前の権利だ。長い長い道のりを早足で通学したジャクソン君たちにとって、学校はどんな場所なのだろう。  
映画では通学の途中、2人がソウに襲われかける場面がある。野生動物は2人にとって恐るべき存在だ。  
「ソウに出会うということは人生の最後、死を意味する。最悪の気持ちだったよ」(ジャクソン君)  
2人には「学校に行かない」という選択肢もあった。しかし、通学路でソウに襲撃される危険にもめげず、彼らは教育に向き合っている。

## 危険な道のり「知る」ために進む

「学びを得るために努力は惜しまないよ。世界のどこや世界に住む人、環境のことは教育を通して知ることができない。もっともっとと学んで、知りたいんだ」  
映画では2人のほか、世界各国で山道や荒野を長時間かけて通学する3組が映し出された。その様子に、ジャクソン君自身も励まされたという。  
「あまりにも長い道のりで危険だし、学校に行きたくない日もあった。でも映画を見て、『行かない』とか『行けない』って言うちゃいけないんだな」とジャクソン君の言葉が私の心に響いた。  
「世界中の子どもたちが学校に行っているんだから、自分が通わない理由はない。きっと学校では何かを得ることができるんだ」

## チャンスを使い、得る幸せ

私たちが「学校に行く」ことを負担に感じることがあるのは、きっと得ているものに気づいていないからだと思う。宝探し途中だからだ。  
学校に行かなければその時間に好きなことができるし、制限されることも少なくなる。面倒な問題も考えなくて済む。  
しかし、それは一時的な安らぎにすぎない。私たちが本当に宝を得る機会を

「この先に何があるかわからない。チャンスを使わなければならない。チャンスを使得たくさんのものを得て、役立てるのがとても大事」  
パキスタンの女性活動家・マララさんが「すべての子どもたちに教育を」と訴えたスピーチは世界の人々の心を揺り動かした。そしてジャクソン君は私に「教育」についてのヒントをくれた。  
知りたいから学ぶ。学んだらもっと知りたい。私は学ぶことを続け、また、世界のどこかで学習している子どもたちを応援したい。



朝中特派員リポート 周さんが取材



ケニアのジャクソン君(左)と妹のサロメさん(右)に朝中特派員の周さん(中央)がインタビューしました=3月下旬、東京都新宿区、渡辺英明撮影

周培文さん 台湾出身。3年前に来日し、日本の国立中に通う2年生。台湾の学校は日本とあまり変わらないという。夢は「世界をつなぐ仕事」。  
ジャクソン君とサロメさん アフリカ・ケニアのサムブル族出身で、一族で初めて学校に通った。映画をきっかけに支援を受け、今は2人いっしょに寄宿学校で高度な教育を受けている。サロメさんの夢は学校の先生。「私自身の助けとなるし、家族や親せきの助けにもなるからです」

主食 米  
米の原産地  
カンボジア  
ラオス  
シネガポール  
ミャンマー

草や木、水があるところ  
どうやかが探す

サバサ氣候 雨季  
ある地域 ← 乾季  
で、一年のうち、雨の少ない季節

4月10日 平均 東京 1600mm  
うん 温 図  
タイ(バンコク) 年 28.9℃ 1653mm